

○山頂の氷河の焼失の理由には、平衡線高度の上昇の他にも、山頂部分への降水が少なくなるということは考えられないか？

→氷河の焼失の理由は、すべて平衡線高度の上昇による。平衡線高度の上昇は、消耗量に対する涵養量の減少によって生じ、消耗量の増加は気温の上昇によって、涵養量の減少は降水量の減少によって生じる。

○南極の流動のスピードがあがると海水面が上がるということは、温暖化が止まってもツバルが沈むということか？

→温暖化が止まれば、南極の流動速度の上昇は止まるであろうが、温暖化する以前よりは流動速度は速いかもしれないので、海水面の上昇はある程度まで進むかもしれない。

○氷河の流動が止まってしまった場合、氷河ではなく氷体になるのか？

→流動していないものは氷河とは呼ばないので、氷体と呼ばれる。

○「南極の氷が融けて海水面が上昇する」というのは、世界の平均気温が 20~30℃上がらないと生じないことか？

→程度によるが、南極の氷河の大部分が融けるには、20~30℃以上の気温上昇が必要である。

○氷河の流動で基地も動いてしまって海にぼちゃんということはないのか？

→昭和基地は露岩の上に建っているのでぼちゃんということはないが、ポストーク基地などは氷河の上に建っているのでぼちゃんとなりそうなものではあるが、南極氷床の中心部では水平方向ではなく鉛直方向の動きが卓越するため、ほうっておくとぼちゃんとなる前に氷の中にとりこまれる。

○流動の中に雪崩は含まれるのか？それともまったく別物なのか？

→別物である。雪崩は雪が崩れ落ちる現象で、氷河でも急斜面にあるものは崩れ落ちることがあるが、それは流動ではない。

□冬になるとオホーツク海に流氷が来るが、どこから来ているのか？流氷も雪からできているのか、それとも海水か？

→オホーツク海の海水が凍ったものである。

□南極が平均 2450 m の氷だとすると、南極はその氷の内部まで 0℃以下を維持できるほどの寒さということになると思うが、それほど寒いのに、なぜ周りの海氷や氷河はそこまで高くないのか？

→そこまでは 2450 m ほどまで高くないということか。そう

であれば、2450 m というのはあくまで平均で、南極極点付近ほど氷河は厚く、低緯度側ほど薄くなる。

□ポストーク基地に行くには、3500 m 以上の山に登らないといけないのか？

→3500 m 以上の氷の山に登らないといけない。

□南極は大陸であるために北極よりも気温が低いと聞いたことがあるが、これには気圧や標高が関係しているのか？

→大陸であるために気温が低い理由は、海洋の効果による。

□立山の氷河の空中写真にあった水面は、黒部ダムか？

→黒部川第四ダムのダム湖である。

□昭和基地はまだしも、ポストーク基地のような内陸に、どうやって基地の機材を持って行ったのか？

→飛行機ではないか。